



YELL

エール
第18号

那須教育事務所ふれあい学習課
〒324-0056 栃木県大田原市中央 1-9-9
Tel:0287(23)2177 FAX:0287(23)2193
Mail:nasu-kyouiku@pref.tochigi.lg.jp
Vol 18 平成24年 5月

社会福祉協議会と学校の連携②

若葉青葉をわたる風も快く感じられる季節となってきました。先生方におかれましては、益々御活躍のことと思います。

さて、今号も前号に続いて社協と学校との連携について考えていきたいと思ひます。前号では、社協がどんな団体で、学校にどんな協力をしているかを紹介しましたが、今回はよりよい連携について、前号に続き、那須塩原市社会福祉協議会の大島こずえさんに話を伺いました。

Q：学校との福祉教育について感じていることを聞かせてください。

A：限られた時間の中で、学校の先生方が社協を利用して授業を組み立ててくれることは、良いことだと感じています。しかし、現在学校で行っているものは、体験型の福祉教育が中心で、障がい者や高齢者の疑似体験を1時間程度で行い、最後の5分程度の時間で感想を発表し、まとめをして終わりという形です。まとめやふりかえりに十分な時間がとれず、本当にこの体験が福祉への理解と関心を深めることにつながっているのか、日常生活に生かせるものなのか疑問をもちながら行っています。

Q：よりよい連携、よりよい福祉教育を進めて行くには、どうしたらよいと思ひますか？

A：体験することは大切ですが、「かわいそう、たいへん。」の感想で終わってしまわないで、その次につながっていくような展開が必要だと思ひます。体験後の学習にも社協が関わって更に学びを深めていくことも必要なのだと感じています。

子どもたちも地域の一員として、自分自身も含めて友達や地域の人達が暮らしやすい地域に

なるよう考える。そして、自分たちができることを実践し、地域の人に喜んでもらうという地域貢献の経験が、子どもたちの地域社会への参画意欲を高め、豊かな福祉感につながると思うのです。例えば、思い切って、地域の福祉まつりを地域の人と一緒に作り上げるというものもおもしろいと思ひます。

昨年もやったから同じように障がい者や高齢者の疑似体験を入れるのではなく、それをやる目的は何なのか、子どもたちに何を学ばせたいのかを事前によく考えること、そして体験後は活動をふりかえり、次の活動を考える。できるなら、小学校4年生で福祉のことを学び体験したら、5、6年生では、身近な自分たちの住むまちの実際の生活課題・福祉課題を取り上げて解決方法を考えるなど、更に学びを深める取組につなげることができたらいいと思ひます。

その学びや活動の中で分からないことがあれば、社協でもできる限り協力し一緒に考えたいと思ひます。社協にとっても、より子どもたちに身近な福祉教育プログラムを作ること、福祉教育を通して学校と地域をつなげていくことが、これからの課題であると思ひています。

よりよい福祉教育を進めるには、「地域」という視点をもつことも大切なのですね。「地域」をしっかりと見つめると、おのずと「何を子どもたちに伝えたいのか」が浮かんでくるかもしれません。社協では、福祉体験だけでなく講師の情報、地域の情報も提供してくれます。福祉教育をどう進めていいか迷ったら、ぜひ、社協に相談してみるのもいいかもしれませんね。

メール送受信に関する意識調査

昨年度末の16号にて、メールを利用した情報の送受信についてアンケートを行いました。年度末の忙しい時期だったためか7名の方からの回答しかいただくことができませんでした。回答結果は、次のとおりです。

- Q** あなたは、メールによる情報の送受信について、どのようにお考えですか。
- 1 賛成であり、生涯学習係と有資格教員の全員参加で行うべきである。(1名)
 - 2 賛成であるが、趣旨に賛同するものだけで行うべきである。(6名)
 - 3 あまり賛成できない(0名)
 - 4 どちらとも言えない(0名)

御協力ありがとうございました。



那須地区ふれあい人権の集い
日時：平成24年6月23日(土)
場所：那須町文化センター
内容：第1部 作文発表
第2部 講演
「発達障がいの理解と支援
～アスペルガー症候群の息子との泣き笑いの日々～」
講師 ゆずりは県北事務局
奥木 美保 氏
ぜひ、御参加ください。